

第 50 回日本薬剤師会学術大会

在宅医療における慢性疾患合併 ADL 低下患者への関わり～現状の分析とアウトカム～

アーク調剤薬局 葦崎店

平賀 一貴

【目的】現在、複数の疾患をかかえ、多数の薬を服用している高齢者が多数存在する。その中で薬剤師の業務としてポリファーマシー対策、在宅医療への参加が注目されている。在宅医療の中でも緩和ケアに関する報告はあるが、慢性疾患を合併し ADL 低下した例の報告は少ない。当薬局の在宅訪問患者の多くは生活習慣病などを患い年齢を重ね、ADL が低下した高齢者が多い。そこで、当薬局の在宅訪問患者の背景などを分析し、また薬剤師としてどういった貢献をしたか症例を交えて報告をする。【方法】H27 年 4 月～H29 年 4 月の 2 年間で在宅訪問を行った 19 例（男性 4 例・女性 15 例）について解析を行った。年齢は 84.8 ± 5.5 歳、薬剤数は 5.1 ± 2.1 種類（外用剤は除く）、保険分類別では医療保険が 9 例、要支援が 6 例、要介護が 4 例であった。症例は 1 人暮らしあるいは 2 人暮らしの 80 歳以上の高齢者 5 例（男性 1 例・女性 5 例）で、ADL が低下し通院が困難で複数の慢性疾患がある。

【結果】薬剤数において、19 例中 10 例（53%）は 5 種類以上を服用していた。その後、薬剤数が減ったのは 2 例（10%）、増えたのは 6 例（32%）、変わらないのは 11 例（58%）であった。保険分類別で比較すると、年齢・薬剤数に有意な差はなかった（student's t-test, $p < 0.05$ ）。症例報告において、服薬コンプライアンスが向上することで、ADL が良くなり、要支援から医療保険に移行された症例や薬剤が減った症例がみられた。また、医師の診断時では血圧は問題ないが、訪問時にバイタルチェックを行うと血圧が高く、測定を行うよう促したところ、朝が特に高かったので、降圧剤が追加される 2 症例がみられた（アムロジピン 2.5⇒7.5mg に増量、もう 1 人はアムロジピン 7.5mg が追加）。【考察】高齢者において薬剤の適正使用に薬剤師が関わる事は重要である。今回、服薬コンプライアンスを改善することで ADL が向上したり、また病状の悪化を早期発見する事で重症化を未然に防ぐことが出来た。しかし、複数の飲んでる薬を減らすことができた症例は少なかった。降圧剤が増えた症例は薬の副作用というよりも食事が原因と考えられる。高齢者は生理機能が低下し、食事量なども低下することがあるため、薬の副作用が出やすい。ポリファーマシーに対し、どのように関わっていくかは今後の課題である。【キーワード】在宅医療 薬剤師業務 ADL 慢性疾患 アウトカム